

研究主題

すすんで考え、学び合い思考を深める児童の育成
～国語科の 話す・聞く を中心として～

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名

単元名「ざいりょうを集めて、ほうこくする文章を書こう」

【書く】「光村図書・上」

教材名「気になる記号」

2 単元目標と評価規準

(1) 単元の目標

- ・報告するために必要な事柄を調べ、報告する文章の構成に沿って文章を書くことができる。
- ・書いた文章を読み合い、意見や感想を伝え合うことができる。
- ・適切に句読点を打ったり、段落を分けたりして書くことができる。

(2) 評価規準

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む 能力	言語についての 知識・理解・技能
① 身近な事柄から題材を探し、文章に書いて伝えようとしている。	① 日常生活の中で話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、相手に伝わるように話している。 ② 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことを捉えている。	① 題材に関して適当な実例を集め、情報を分類している。 ② 報告の型に沿って文章を書いている。 ③ 自分の書き方と友達の書き方を比較し、感想や意見を伝えている。		① 調べたことをまとめて報告する文章の書き方を適切に理解している。 ② 句読点や段落を適切に理解して文章を書いている。

3 単元について

(1) 児童の実態

① アンケートによる実態 33名

<アンケート結果>

		はい	どちらか という はい	どちらか という いいえ	いいえ
1	国語の学習は好きですか。	20	12	1	0
2	班の友達に自分の意見や考えを話すことは好きですか。	18	9	5	1
3	みんなの前で自分の意見や考えを話すことは好きですか。	13	12	4	4
4	友達と話し合いながら学習することは好きですか。	28	3	2	0
5	聞いている人が分かりやすいように、考えて発言していますか。	17	11	5	0
6	話している人を見て、うなずきながら聞いていますか。	20	10	3	0
7	話している人が何を伝えたいか、考えながら聞いていますか。	22	5	6	0

アンケートの結果から、全体の9割以上の児童が、国語科の学習が好きで活動に前向きに取り組んでいることがわかる。

問7の項目について、話している人が何を伝えたいか考えながら聞いている児童は8割以上いて、児童が自分の考えと友達の考えとを比較しながら聞いて学習していると考えていることがわかる。また、問4から友達と話し合いながら学習することが好きな児童は9割いることがわかる。

問2の項目について、少人数で自分の意見や考えを話すことが好きではないと考えている児童が6名いるが、問3の項目について、みんなの前で意見や考えを話すことが好きではないと考えている児童となると8名に増えており「みんなの前だと恥ずかしいから」という理由があがっている。問6の「話している人を見て、うなずきながら聞いていますか」の質問では9割以上の児童が「はい」と答えているが、学習活動の様子から、実際は学級で半数ほどの児童がうなずきながら聞いている様子が見られる。

本単元の学習を通して、ペアでの話し合い活動を多く設定し、「うなずきながら聞く」など話の聞き方を児童に身に付けさせたい。また、話し合い活動を行ったことで、良いメモや文章が書けたという達成感を児童に味わわせ、自分の意見や考えを言うことに対する苦手意識を弱められるようにしていきたい。

② 日常の実態

「話すこと」

授業中に挙手をして発言できる児童は全体の4割程度である。友達の発言や発表を聞き、自分の考えに自信をもってから挙手する児童もいる。一方「発言したほうがよい」という気持ちがあるのだが「自信がない」「他の友達に任せればよい」という児童もおり、積極的に発言する児童とそうではない児童に極端に分かれてしまう。

本学級では、朝の会や帰りの会に日直のスピーチを行っている。1周目は教師が提示した話題で話すことを目標にしていたが、2周目からは児童自身が話題を決めスピーチを行っている。児童によっては、聞き手を意識せずに話をしてしまうこともあるので、相手に伝わるように適切な言葉遣いで筋道を立てて話せるように指導していく。

今回の学習を通して自分が気になる記号を集め報告する文章を書き、相手にしっかりと伝わるように発表することの楽しさを実感してほしい。また、他の友達の文章を読み、意見や感想を伝えることを経験してほしい。

「聞くこと」

普段は、多くの児童が静かにして相手の意見を聞こうとしている。スピーチでは、相手を見てうなずいたり、表情豊かに話を聞いたりしている様子が見られる。しかし、中にはすぐに自分の意見を言いたくなり話を遮って発言してしまう児童もいる。また、発表を聞いたときに、話し手の考えている意見と自分の意見とを比較しながら考えようとしているが、うまく話を聞き取れずに同じ質問を繰り返している児童もいる。しかし、授業中は担任の話に耳を傾け聞く姿が見られるので、少しずつではあるが話の中心を落とさずに気を付けて聞こうとする意識が育ってきている。

今回の学習の中で相手が書いた文章を読み、意見や感想を伝え合う活動を通して、学級の友達の輪を広げ、発表をすることの楽しさを実感させて、意欲的に話を聞く児童を育てたい。

(2) 単元設定の理由

本単元は、書く能力の中でも「報告書を書く」ことの構成の学習に焦点を当てている。示されている構成の組み立てを考えながら書かせたい。

また、学術論文の書き方で難しい単元だからこそ、友達のアドバイスを受けながら下書きに向けてのメモを書くことで、より良い文章になると推測される。友達の作成する文章に関わり、アドバイスを積極的にし合って意見を伝え合わせたい。

(3) 教材の分析

日頃、あまり意識せずに接している「記号」について、改めて考える機会となる。そして「記号」が、社会において大切な役割をもつものであることを認識できるとよい。

「疑問に思ったことを調べて報告する文章」を書く活動で「問い」を決め、追究する「方法」を考え、実際に「調べて」、分かったことを書くという、調査報告文を書くための一連の力を養う単元である。示されている構成「調べたきっかけ」「調べ方」「調べて分かったこと」「かんそう」は、学術論文の書き方で少し難しいが、前単元の「言葉で遊ぼう」や「こまを楽しむ」で学習した「段落」や「まとめ」を再度確認して、事柄ごとに段落を分けて書かせたい。

材料を自ら集め、それらについて詳しく考えるという活動を楽しませ、マッピングなどの手法を教えたりしながら、繰り返し指導を行い、資料を引用するだけに留まらない「書く力」を身に付けさせたい。また、集めた情報からどのようなことがわかったり考えられたりするか確かめていく上で、どのように言ったらアドバイスができるかの「話す力」も身に付けさせたい。

4 目指す児童像に迫るための手立て

【中学年分科会の目指す児童像】

交流する中で共通点や相違点に着目し、筋道を立てて考えをまとめることができる子

(下線部) は、本時での「話す・聞く」の手立て

(1) 授業展開・形態の工夫

- ・選んだ記号についての報告文を書く際、児童が文章構成に気を付けて書けるようにする。本単元では「調べたきっかけや理由」「調べ方」「調べてわかったこと」「かんそう」という構成で書くようにする。
- ・児童に多様な考え引き出させるため、ペアでの活動を取り入れる。メモ作成の段階では、観点を基にペアで協力しながら分析してメモを作成させる。また、文章の下書きをペアで確認や修正を行わせ、児童が読み手により伝わりやすい文章を書けるようにする。
- ・児童には人の前に立って話すことに慣れてほしいので、朝の会では日直がスピーチを行っている。初めは教師が話題を提示し、二週目以降は児童が話題を決めている。
- ・様々な活動の中で友達の発表を聞いた際に、賛成や質問や付け足しなどをハンドサインを用いて表させている。

(2) 学習活動の工夫

- ・児童が主体的に活動に取り組めるよう、身の周りの記号を基に報告文を書くという題材を設定する。
- ・単元導入の際に、児童が見通しをもって意欲的に学習活動に取り組めるように学習計画を提示する。
- ・メモの作成や文章を書く際には教師がモデルとなる例を提示し、児童がメモの観点や文章の修正を行えるようにする。

(3) ICT 機器の活用

- ・児童用タブレットで気になる記号の情報を集め、自分で気付いたことをタブレットに書き加えていく。その情報を基に記号メモを作成したり、下書きや清書を行ったりしていく。また、友達と文章を読み合うときは、報告文の資料として提示できるようにする。

6 単元の指導計画 (全14時間)

次	時	各時間の目標	主な学習活動	●指導上の留意点 ◇評価規準 (評価方法)
一 次	1	○教科書の「身の周りの記号について調べ、報告する文章を書こう」を読み、学習の計画を立てる。	・単元の学習計画を立て、学習の見通しをもつ。	●「通学路で」「学校の中で」「家の中で」「その他」に分類しながら板書に示す。 ●実際の記号を提示して、イメージをもたせる。 ●「誰に」「何のために」報告する文章を書くのか、相手意識や目的意識を明確にもたせる。 ◇身近な事柄から題材を探し、文章に書いて伝えようとしている。 【関①】(観察)

二 次	2. 3	○身の周りにある記号を集める方法について考え、必要な材料を集めてタブレットに書き込むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを使って自分の気になる記号を探したり、家から持ってきたりして、それらの記号の中から報告文で書くものを二つ選ぶ。 ・調べた記号を基に、タブレットに理由を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ●記号についての資料は、遠くから写っている写真と、近くで映っているものの二枚を用意させ、児童がより多様な情報に触れられるようにする。 ◇題材に関して適当な実例を集め、情報を分類している。【書①】(児童用タブレット)
	4 (本時)	○選んだ記号をペアでよく見て、観点を基に分析することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「記号メモ」の例を見て、どのように分析するか知る。 ・タブレットに書き込んだ情報を基に、観点を立てて分析する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「色や形」「文字や絵」など、注目するポイントを確認する。 ●ペアで話し合いを行わせ、多様な考えをメモに表せるようにする。 ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことを捉えている。 【話②】(観察・ワークシート)
	5	○教科書の作例や「釣先生が書いたほうこくする文章」を読んで、報告する文章の特徴をつかみ、書き方を知ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・例文を読んで、気付いたことを出し合い、文章の完成形のイメージをもつ。 ・段落を分けて書くことなど報告する文章の組み立てを確かめ、「釣先生の文章」を使って構成表を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ●教科書の作例や教師の例示を段落ごとに全員で読み、何がどのような順番で書かれているか考えさせる。 ●文章を①～④の項目にまとめ、板書していき、次時に作る構成表の参考にできるようにする。 ◇調べたことをまとめて報告する文章の書き方を適切に理解している。 【知①】(観察・ワークシート)
	6	○文章の組み立てを考えて構成表を作ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の文章の組み立てを考え構成表にまとめる。 ・構成表をペアで読み合い、内容や段落の分け方を助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●記号の写真や前時で作成した記号メモを基に文章を書かせる。その際、「調べたきっかけや理由」「調べ方」「調べてわかったこと」「感想」の項目ごとに文章を書けるようにする。 ◇報告の型に沿って文章を書いている。【書②】(観察・ワークシート) ◇句読点や段落を理解して文章を書いている。【知②】(観察・ワークシート)
	7 ・ 8	○集めたカードや考えた構成表をもとに、報告する文章の下書きをし、助言し合ってよりよい文章にすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・前回書いた構成表や教科書の例示をもう一度読んで、報告する文章の書き方を振り返る。 ・下書きを書く。 ・ペアで読み合い、助言し合う。 ・下書きを完成させ、写真の使い方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「見直し」の際に、文字などの間違い以外にも、表現や書き表し方の確認も行わせる。 ◇日常生活の中で話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、相手に伝わるように話している。 【話①】(ワークシート) ◇句読点や段落を理解して文章を書いている。【知②】(ワークシート) ◇報告の型に沿って文章を書いている。【書②】(ワークシート)

	9	○下書きを清書して、報告する文章を仕上げることができる。	・完成した下書きをもとに、清書用紙に報告文を書く。	●作品を書き上げた達成感を味わえるように、丁寧に書く時間を確保する。 ◇報告の型に沿って文章を書いている。【書②】(ワークシート)
三次	10.	○仕上がった文章を友達同士で読み合い、意見や感想を交流することができる。	・友達同士で報告する文章を読み合い、意見や感想を交流する。 ・調べたことについて ・説明の仕方について	●つまづきが見られる児童には、初めは教師と一緒に文章を読み、「良さを見つけて伝える」という一連の流れを体験させ、交流の仕方を示す。 ◇自分の書き方と友達の書き方を比較し、感想や意見を伝えている。 【書③】(観察・ワークシート)
	11.	○これまでの活動を振り返り、学習したことをまとめることができる。	・学習のまとめをノートに書く。 ・全体で交流し、単元の学習をまとめる。	●「活動のながれ」に沿って、どのような活動をしたのかを振り返らせる。 ◇調べたことをまとめて報告する文章の書き方を適切に理解している。 【知①】(ノート・ワークシート)

8 本時の指導 (4/11)

(1) ねらい

必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、分析したことをメモに書くことができる。
(話すこと・書くこと)

(2) 展開

	○主な学習活動	●指導上の留意点	◇評価
導入	1 本時のめあてを確認する。		
	えらんだ記号について友達と話し合い、気付いたことを書こう。		
	2 記号メモの例を見て、記号をどのように分析して記録するかを知る。 ・「自転車通行止め」の写真をみる。 ・記号の色について気付いたことや理由を確かめる。	●例として「自転車通行止め」の記号をタブレットで提示したり、記号メモを実物投影機で投影したりして児童に示し、分析の仕方を確かめる。 ●その記号が「何を伝えようとしているか」や「伝えるための工夫」を分析させる。 ・色 ・形 ・文字 ・絵 ・あった場所 などの観点から1点を児童に考えさせ、分析の仕方を確かめる。	

<p style="text-align: center;">展開</p>	<p>3 タブレットの画像を基に、ペアで観点を参考にして分析する。</p> <p>流れ</p> <p>① ペアでタブレットを見ながら、相談する。相談したり考えたりしたことはメモする。(4分間)</p> <p>② メモの作成が終わったらペアの人のメモを作成する。(4分間)</p> <p>③ 同様の流れを、ペアを代えて行う。(4分間+4分間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●児童が話し合いの手順を捉えられるように教師が児童と共に話し合いのモデルを示す。 ●ペア編成は、多様な意見を児童から引き出すため、違う記号を選んだ人同士でペア組み相談させる。 ●色、形、文字、絵、場所などの観点ごとに分けて、メモを仕上げられるようにする。話が止まっているペアには改めて上記の観点を個別に示す。 ●分析からその記号がもつ意味や伝えるための工夫、それぞれの観点での理由を見付けられている児童の発言や記号メモを取り挙げ例として示す。 	<p>◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことを捉えている。</p> <p>【話②】(観察・ワークシート)</p>
<p style="text-align: center;">まとめ</p>	<p>4 本時のふり返しをする。</p> <p>5 次時の学習を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●友達と話し合いながらメモを作った結果、考えが広がったという意見を共有する。また、肯定的に認め、次時も意欲的に学習できるようにする。 	

9 板書計画



